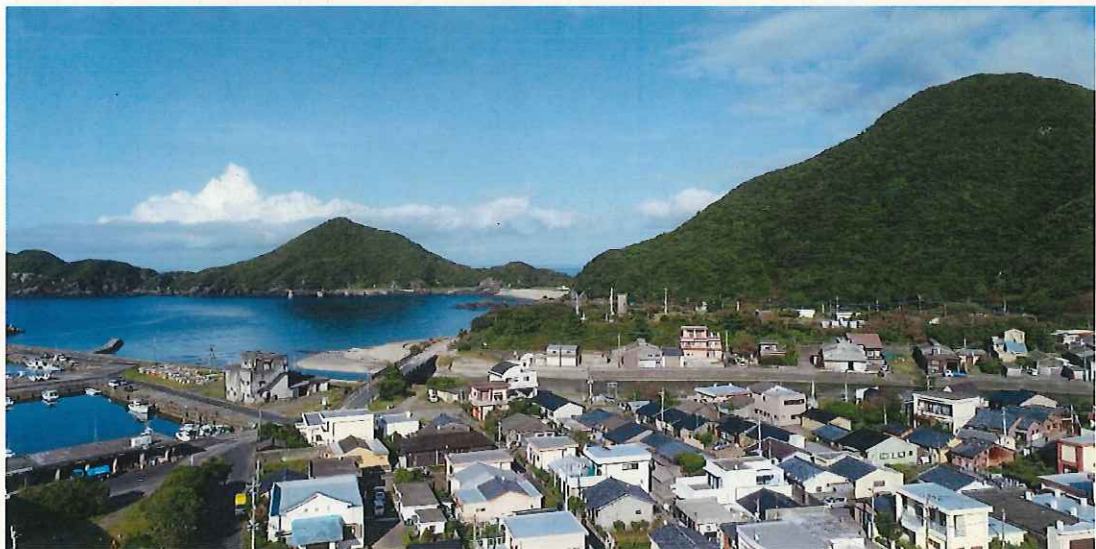


鹿児島県離島振興協議会  
平成30年度アイランドキャンパス事業  
実施報告書

屋久島一湊集落における  
移住・定住促進計画づくりのためのワークショップ



鹿児島大学工学部建築学科  
建築設計IV 屋久島スタジオ  
(担当教員：小山雄資)

## 1. 事業の概要

屋久島・一湊集落で、島外からの移住者を受け入れる計画が検討されている\*。どのような人々を対象として、どのような暮らしを提案するのか、そのためにどのような住まいが必要であるか、事業化にむけて検討すべきことは多岐にわたる。この計画づくりを鹿児島大学工学部建築学科と一湊集落との協働で進めるため、現地でワークショップを開催した。

学生にとっては現実の条件にもとづく建築設計の演習課題に取り組むことができ、その成果について実際的な見地から検証することができる。一方、集落にとっては、学生とともに地域づくりの機運を醸成し、移住・定住促進住宅の建設や運営にかかわる担い手づくりへとつなげていくことができる。

なお、今回の事業（ワークショップ）は、鹿児島大学工学部建築学科の3年生後期に開講される「建築設計IV」の演習課題（屋久島スタジオ）の一部として実施した。

\* 鹿児島大学大学院理工学研究科木方研究室・小山研究室と合同会社屋久島との共同研究「屋久島一湊地区における移住・定住促進計画の研究」として実施中

### 参加者

小山 雄資（工学部建築学科・准教授）  
朴 光賢（工学部建築学科・助教）  
高橋 一貴（大学院理工学研究科建築学専攻・2年）  
井尻 敬天（工学部建築学科・3年）  
井上 紘太郎（工学部建築学科・3年）  
刈谷 直人（工学部建築学科・3年）  
久保田 未咲（工学部建築学科・3年）  
西郷 聡子（工学部建築学科・3年）  
高尾 龍宗（工学部建築学科・3年）  
常盤 侑加（工学部建築学科・3年）  
徳田 哲志（工学部建築学科・3年）  
長田 亮平（工学部建築学科・3年）  
中村 勇太（工学部建築学科・3年）  
浜崎 純雄（工学部建築学科・3年）  
水田 治久（工学部建築学科・3年）  
村上 祐太（工学部建築学科・3年）  
森脇 駆（工学部建築学科・3年）  
脇田 康平（工学部建築学科・3年）

## 2. 演習課題について

### ■課題の概要 「再考／再興される集落のすがた」

屋久島の一湊はその名に示されているとおり、島一番の良港を有する集落で、古くから屋久島の玄関口として栄えてきた。かつてに比べると人口は減少しているものの、首折れサバに代表される海の幸や山地からの豊かな水など地域資源に恵まれた集落である。このような豊かな環境を活かして、島外からの元気な移住者を迎える計画が現在構想されている。この計画は、たんに移住者を受け入れるだけでなく、生活をささえる営みも含めて、集落全体の再興を見すえた内容となることが求められている。

計画地は川の対岸にあり、一湊集落において重要なランドマークとなっている丘の上にある。したがって、既存集落の景観からどのような連続性をつくりうるか、また日常生活において集落とどのような関係性を構築しうるか、既存の環境を十分に理解した上で景観上・プログラム上の提案をおこなうことが大切である。

この演習では、一湊集落に足を運び、現在の集落のすがたを手がかりとしながら「集まって住むことの豊かさ」とその背後にある諸条件について検討する。そのプロセスを通じて、現在構想中の移住者コミュニティの建設において展開可能なデザインの指針を見だし、再興される一湊集落の将来のすがたを描くものとする。

### ■課題の内容

- 1) 一湊集落における空間パターン・デザインパターンの収集（建築スケール～地区スケール）
  - ・典型家屋の実測と集落空間の観察
  - ・デザイン指針となりうるパターンの整理（キーワード、解説、空間イメージ）
- 2) 敷地のデザイン（1/200～1/500）
  - ・移住者を受け入れる住宅群と共同施設、オープンスペース（緑農空間・広場・駐車場等）の配置計画
  - ・共同施設やオープンスペースのプログラムは各自設定する
- 3) 建築のデザイン（1/50～1/200）
  - ・移住者向け住宅のプロトタイプ提案

### ■対象地

鹿児島県熊毛郡屋久島町一湊

個人課題の敷地は集落内の測候所跡地 面積（平坦部）：2,876 坪（9,493 m<sup>2</sup>）

## ■課題2)と3)の設計条件

- \* 建物総面積は1000坪程度とし、個人の空間(住棟)と共有の空間(共同施設)の面積配分が2:1となるように計画する(建設費の目安 60万円/坪×1,000坪 =6億円)
- \* 住戸は8坪、12坪、16坪の3種として、各戸数は総面積の範囲内で設定する
- \* 共有の空間(共同施設)の使い方を設定する
- \* 駐車場を20~30台分確保する

## ■演習のスケジュール

1. 10/04(木) 課題説明  
10/05(金) フィールドサーベイの準備(ベースマップの作成)
2. 10/11(木) フィールドサーベイの準備(一湊集落と計画に関する講話, 家屋実測練習)  
10/13(土) 現地ワークショップ(フィールドサーベイ)  
集合 7:15 鹿児島本港・種子屋久高速船のりば  
宿泊先: 民宿湊楽~そら~・花屋旅館  
10/14(日) 現地ワークショップ(フィールドサーベイ)  
解散 18:15 鹿児島本港
3. 10/18(木) エスキスチェック(全体ゾーニング・デザインガイドラインの検討)
4. 10/25(木) エスキスチェック(配置計画)
5. 11/01(木) エスキスチェック(住戸計画)
6. 11/08(木) エスキスチェック(住戸計画)
7. 11/15(木) エスキスチェック(プレゼンテーション)
8. 11/23(祝) 現地ワークショップ(成果報告会)  
集合 7:50 鹿児島本港・フェリー屋久島2のりば  
宿泊先: 民宿湊楽~そら~・花屋旅館  
11/24(土) 現地ワークショップ(補足調査)  
解散 18:50 鹿児島本港
9. 11/28(水) 学内講評会(指宿スタジオと合同)

### 3. ワークショップの報告（フィールドサーベイおよび成果報告会）

今回の事業では、下記2回のワークショップを一湊区公民館の協力を得て実施した。

- (1) 2018年10月13日（土）～14日（日）  
フィールドサーベイ（典型家屋の実測、集落のデザインパタンの収集）
- (2) 2018年11月23日（祝）  
成果報告会（学生作品の展示と発表）

#### (1) フィールドサーベイ 10月13日（土）～14日（日）

##### ① 典型家屋の実測

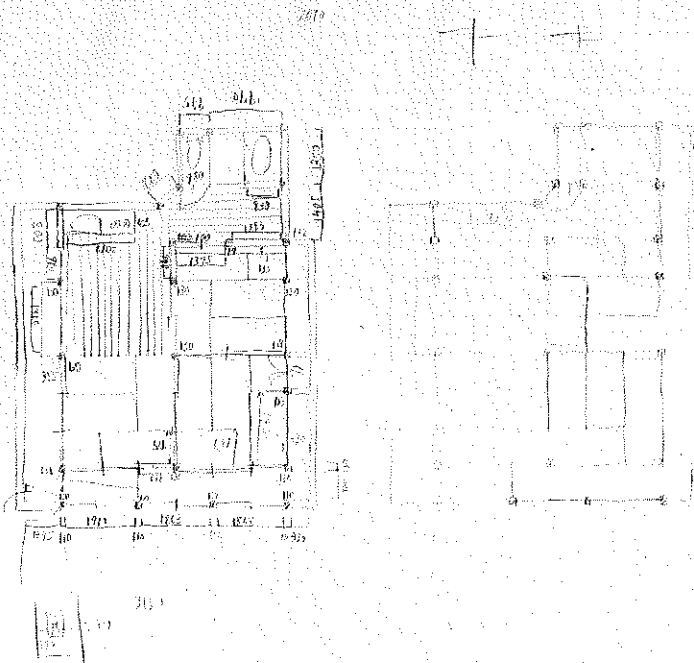
一湊でみられる典型的な家屋を対象として、伝統的な建築物の居住空間を把握するための建物実測をおこない、平面図、立面図、断面図を作成した。田の字型の平面や低い屋根など、この地域の家屋の特徴について把握した。



小屋組も実測

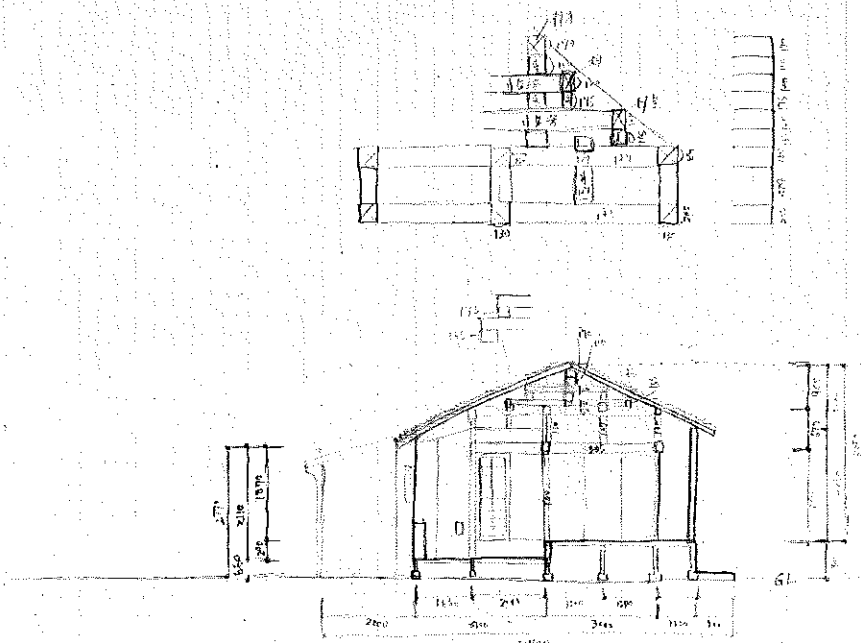


3人1組で実測



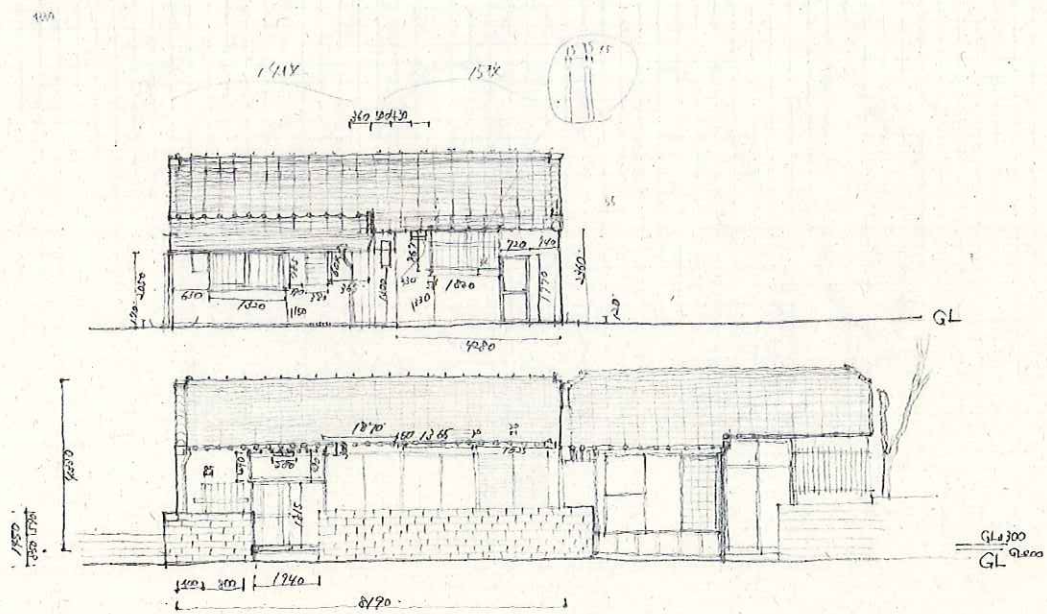
CPIA 刈谷直人

採取した平面図 (例)



051 刈谷直人

採取した断面図 (例)

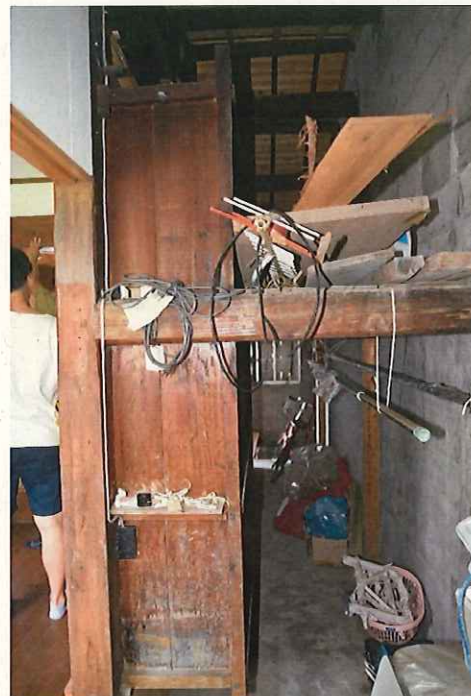


立面図 C班 長田苑平

採取した立面図 (例)



高い床と通り土間



収納空間としての通り土間

## ②集落のデザインパタンの収集

地図とカメラ（スマートフォン）、スケッチブック等を片手に3人1組で一湊集落を歩いて空間の観察をおこなった。集落でよく見られる特徴的な空間や形態などを写真やスケッチとして記録し、公民館に戻ってからキーワードや解説を付して、デザインパターンとした。最後に各グループの成果を報告しあい、具体的な設計を進めるうえで手がかりとなりうる102種のパターンを共有した。



集落の裏路地を歩く



デザインパタンのカードを作成





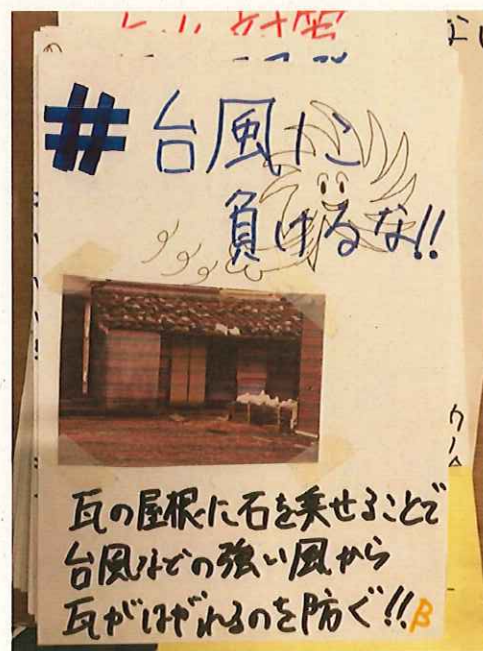
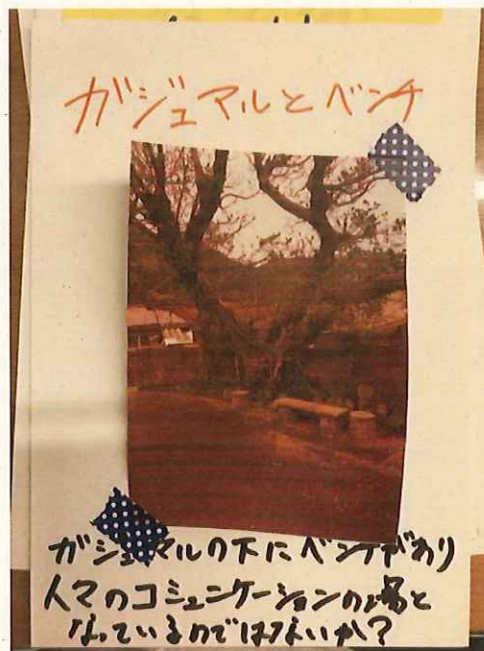
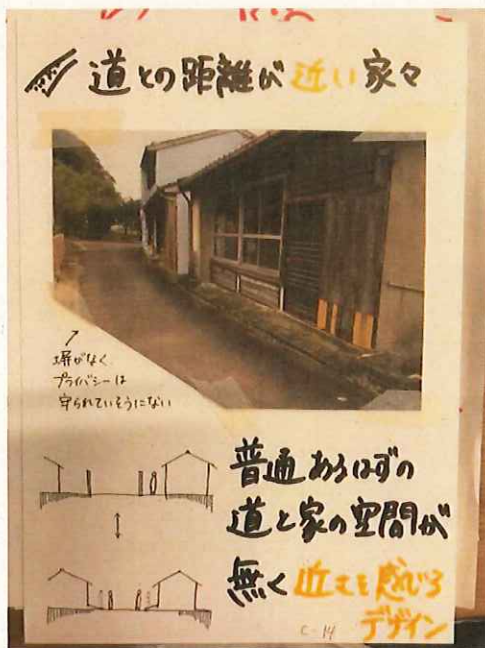
グループごとに傾向を検討



全体でデザインパターンを分析



収集・分析されたデザインパターン



デザインパターン (例)

(2) 成果報告会 11月23日(祝)

10月の現地ワークショップ(フィールドサーベイ)の後、1か月ほど学内で設計案のエスキスを重ね、各学生一作品ずつ図面と模型に提案内容をまとめた。

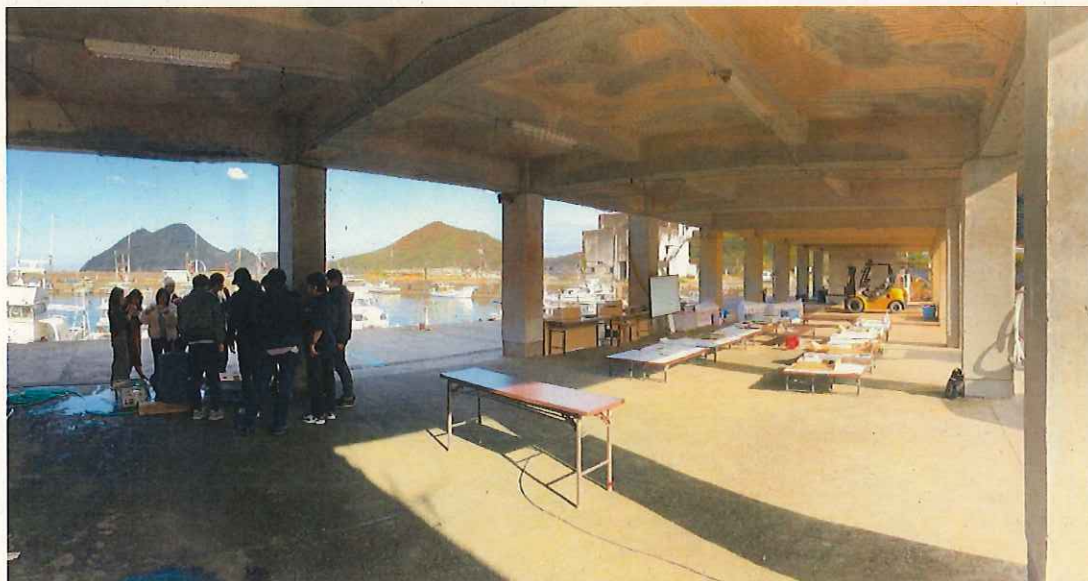
報告会当日は天候にも恵まれたため、一湊漁港にて成果報告会を開催した。演習課題の成果物を大屋根の下に一堂に並べ、今回の趣旨説明をしたうえで、学生が図面と模型を用いながらそれぞれの成果を発表した。



地元の方からの質問に答える学生



学生が制作した模型を見つめる子どもたち



発表開始前のひととき 漁師さんのご厚意で首折れサバの刺身をいただきました

鹿児島大学の学生による建築設計演習 成果報告会



## 再考／再興される 集落のすがた

日 時： 11月23日（祝） 15～17時 （出入り自由）

場 所： 屋久島町漁村センター1階（一湊公民館となり）

内 容：

- 1) 趣旨説明とフィールドワークの報告（15分）
- 2) 学生による移住定住促進計画と建築群の提案（75分）
- 3) 意見交換（30分）

問合せ先 鹿児島大学工学部建築学科 小山 雄真  
電 話 099-285-8309（直通）  
ファクス 099-285-8301（学科事務）  
メール koyama@aac.kagoshima-u.ac.jp

助 成 平成30年度アイランドキャンパス事業  
（鹿児島県離島振興協議会）

成果報告会の告知チラシ

#### 4. 学生による最終成果物

### 井尻敬天： 質の一湊 ～一湊版アルベルゴ・ディフーズ：まち宿～

**質の一湊**  
～一湊版アルベルゴ・ディフーズ：まち宿～

この計画は、既存の建物を活用し、新しい機能を追加することで、まちの魅力を高めることを目指しています。既存の建物は、それぞれ異なる歴史と価値を持っています。それらを尊重しながら、新しい機能を追加することで、まちの魅力を高めることができます。

また、既存の建物を活用することで、まちの歴史と文化を伝えることができます。新しい機能を追加することで、まちの魅力を高めることができます。

**質の一湊**  
～一湊版アルベルゴ・ディフーズ：まち宿～

この計画は、既存の建物を活用し、新しい機能を追加することで、まちの魅力を高めることを目指しています。既存の建物は、それぞれ異なる歴史と価値を持っています。それらを尊重しながら、新しい機能を追加することで、まちの魅力を高めることができます。

また、既存の建物を活用することで、まちの歴史と文化を伝えることができます。新しい機能を追加することで、まちの魅力を高めることができます。

### 井上紘太郎： 境界を更新する長屋

#### 境界を更新する長屋

既存の建物の枠組みを壊し、新しい機能を追加することで、まちの魅力を高めることを目指しています。既存の建物は、それぞれ異なる歴史と価値を持っています。それらを尊重しながら、新しい機能を追加することで、まちの魅力を高めることができます。

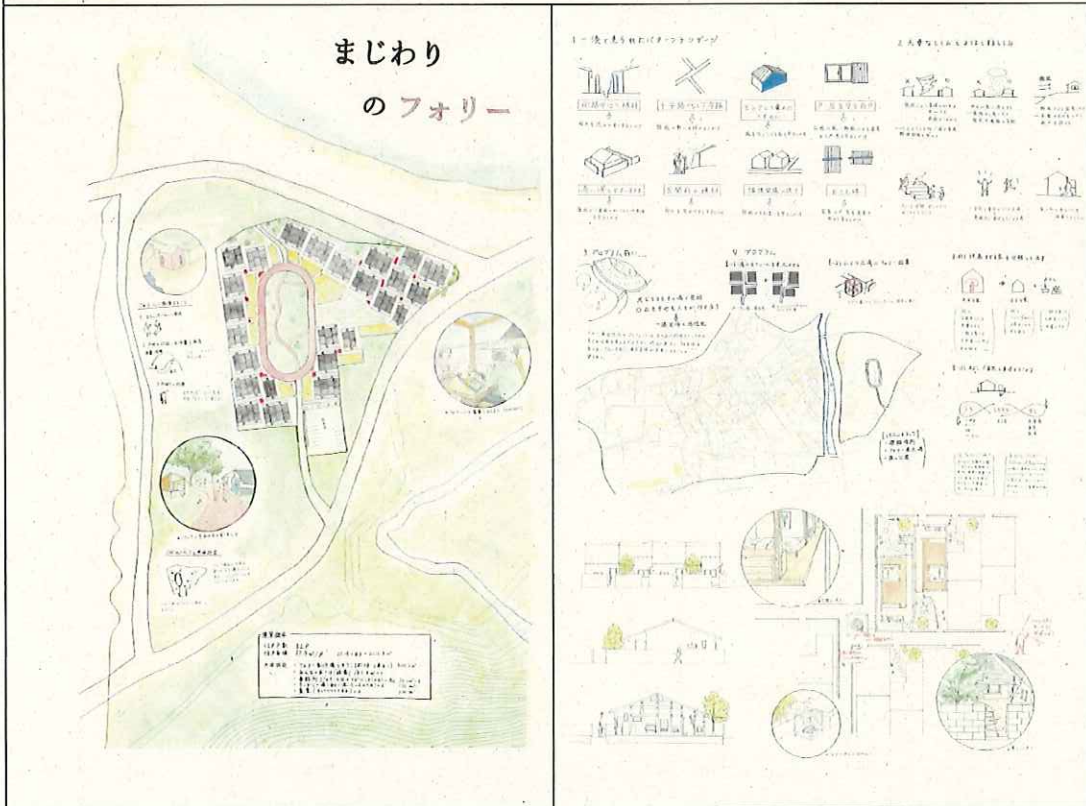
また、既存の建物を活用することで、まちの歴史と文化を伝えることができます。新しい機能を追加することで、まちの魅力を高めることができます。

**境界を更新する長屋**

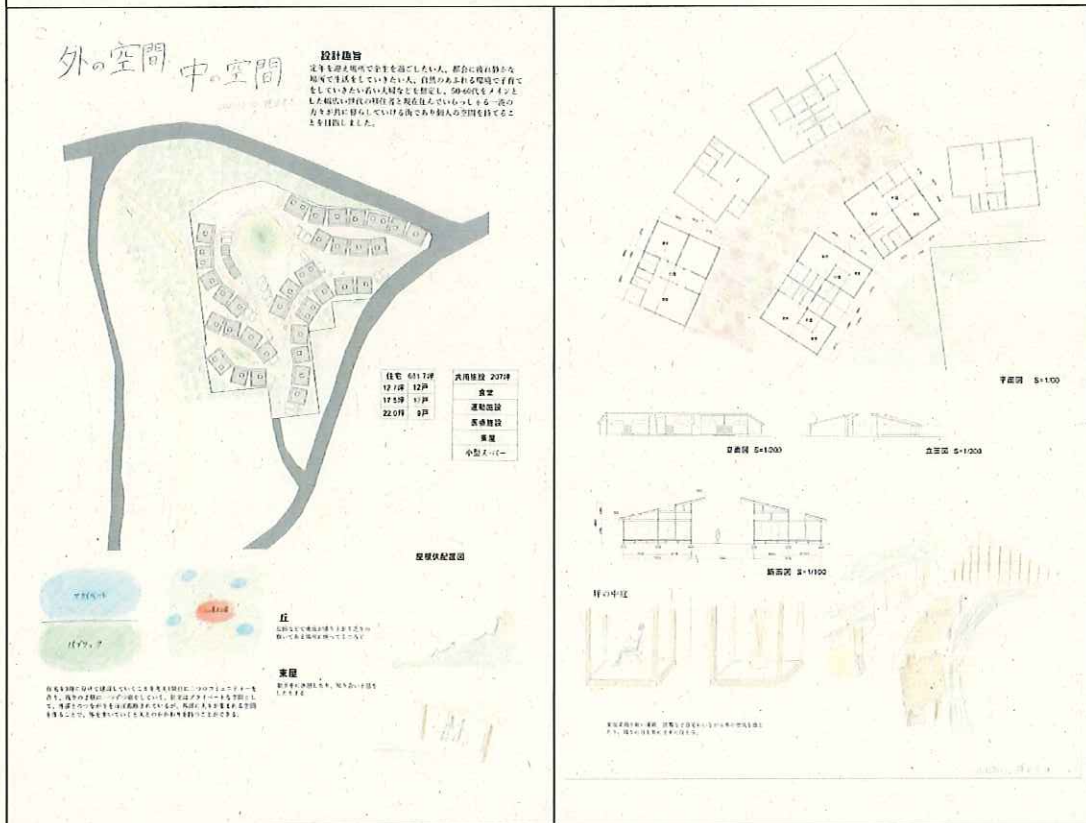
**境界を更新する長屋**



常盤侑加： まじわりのフォーリー



徳田哲志： 外の空間 中の空間



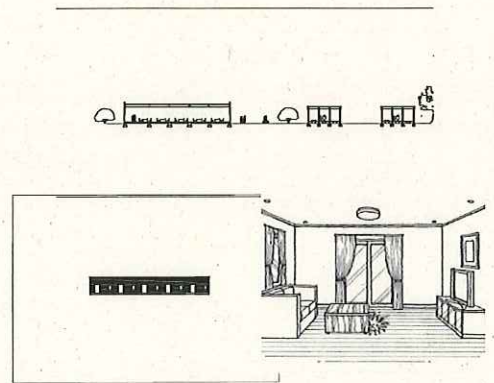
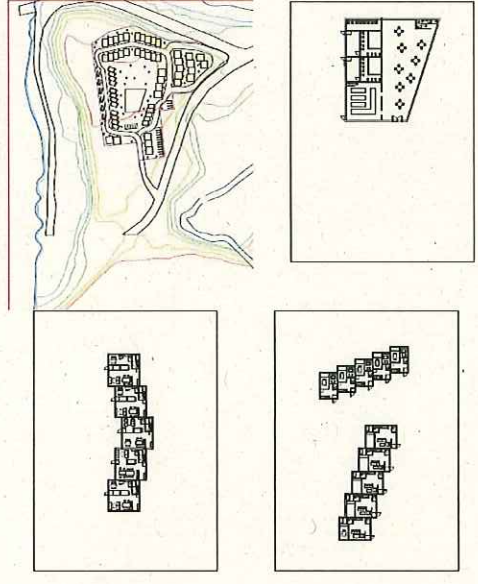




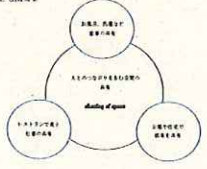
浜崎純雄： つながり

つながり

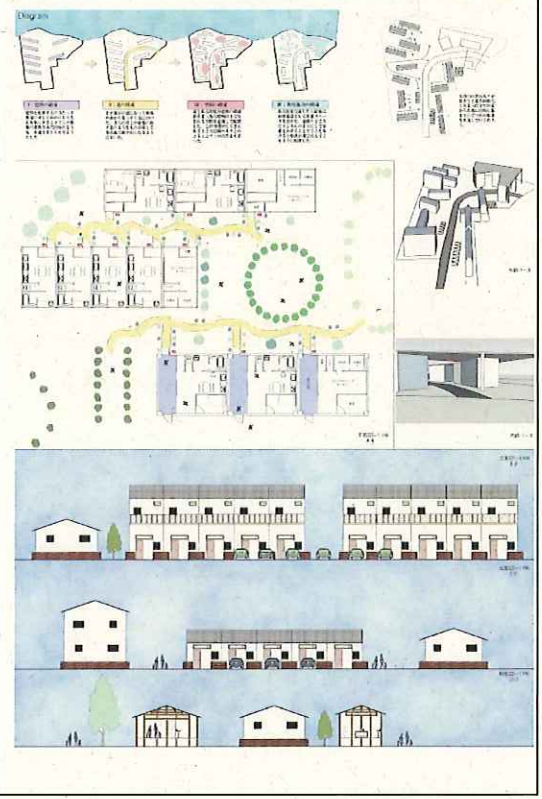
2516230439 浜崎 純雄



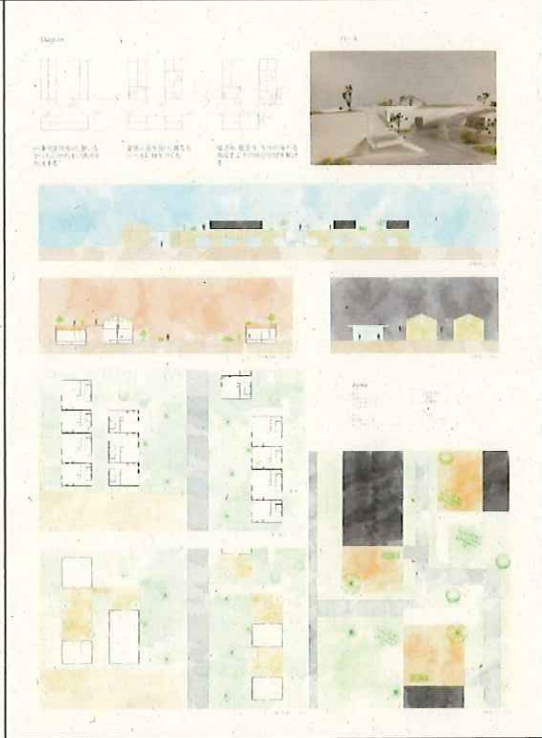
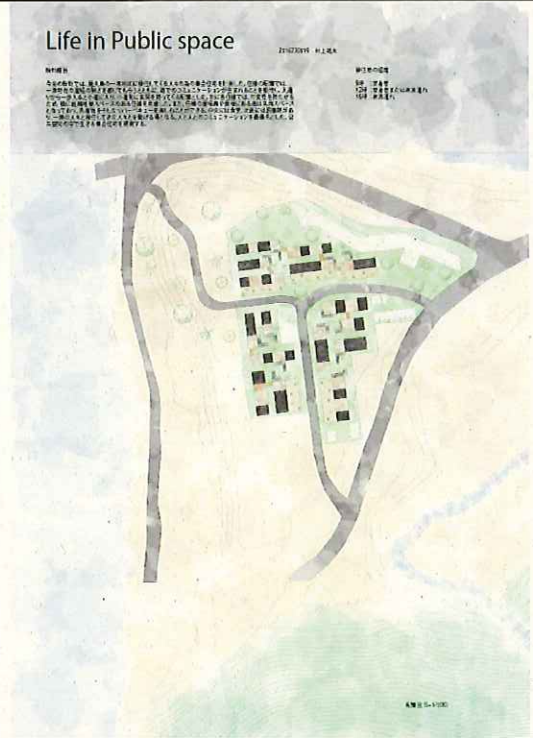
今回の設計でのテーマは、つながりです。人と人とのつながりや場所をつなぐ。一つ目は、真ん中にあるレストランで、そのつながりに合わせて、地元の人たちの生活の様子を表現しています。二つ目は、お風呂と洗面室を連続にしました。お風呂の用途にはお風呂と洗面室がなく、その分スペースゆとりが生まれました。一緒にお風呂に入ることでもつながりを感じます。また、10畳の部屋には、ドアの開口部の確保で、いろいろな取り方で使えます。玄関から入ってすぐの左右のドアを開けると、一つの大きな空間になり、大人を待てる人からでも安心して使えるようになります。逆にドアを開けると、部屋の数を増やし、お風呂との空間を作ることも出来ます。いろんなつながりがある設計になっています。



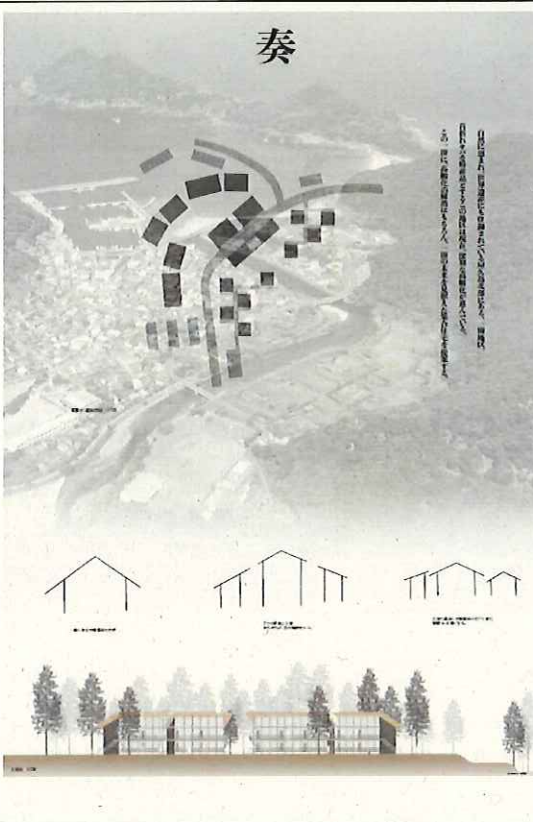
水田治久： 海を望む



村上祐太： Life in Public space



脇田康平： 奏



## 移住者受け入れ施設核に



屋久島町の一湊集落への移住促進をテーマに研究している鹿児島大学・屋久島スタジオの報告会が11月23日、一湊漁協であった。建築学科の学生13人が移住者を受け入れる住宅や共用施設などの設計構想を提案した。

県離島振興協議会の馬場純一さん(62)は「このプランが一湊の起爆剤になれば」と話した。(堀伸一郎)

## 街づくり学生提案

鹿児島大  
建築学科



街づくり案について説明する鹿児島大学の学生(右)＝指宿市のふれあいプラザなのはな館

### 指宿

と街づくりについて考  
年の48人が、砂浜の再  
国の事業で整備が進  
同市であった。鹿児島  
む指宿市の指宿海岸 大  
工学部建築学科3 型を  
使ってそれぞれ発

## 砂浜再生後 模型や図で

呼び込むため、昔ながらの路地を生かす街づくりや、保育園、ソラマメ畑を併設した子ども食堂を提案した。

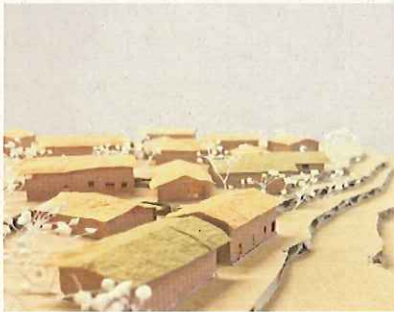
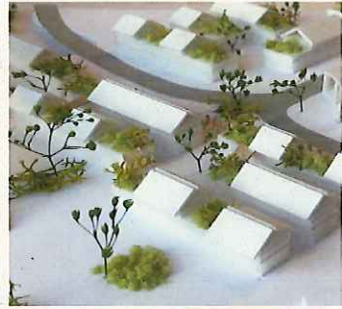
海岸沿いに美術館とアートロードを設ける案を出した池畑裕貴さんは「都市計画まで含め考えるのは初めての経験。温泉街からほかの場所にとつやうて観光客を誘導するかが難しかった」と話した。

協議会の南先生会長は「指宿の宝である海や温泉を生かし、若い人の目線で素晴らしい提案をもらった」と感心していた。

(北村茂之)

### 謝辞

今回のワークショップは、一湊区公民館をはじめ一湊の方々との協力を得て実施しました。ここに御礼申し上げます。



成果報告会の光景

11月23日(祝) 15:00~17:00 一湊漁港にて開催

